

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	はびねす長岡2(単位2:はびねすジョブ古正寺)		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○従業者評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 1日		2026年 2月 28日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○事業者向け自己評価表作成日	2026年3月23日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもの特性を周囲に伝えるだけでなく、園の先生方が明日から実践できる具体的な「環境構成(構造化や視覚的提示)」の提案を得意としているところ。	口頭だけでなく、訪問後に写真や図解を用いた「訪問記録」を速やかに提供。園の先生方が他の職員とも共有しやすい工夫を徹底。	個別支援にとどまらず、訪問先の園内研修の講師を引き受けるなど、園全体のインクルーシブ保育の質を底上げする活動を広げること検討する。
2	訪問先の先生方の困り感に寄り添い、共に解決策を考える支援のご提案ができる。上から目線の指導ではなく、伴走者としての立ち位置で困り感を解決できる。	園生活の中での「ほんの少しの変化」を見逃さず、先生方と共有している。ポジティブなフィードバックを重ねることで、現場の先生方の自己効力感を高める工夫をしている。	
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	訪問頻度の確保が困難。 ニーズに対して対象児童の病欠などがあり、訪問回数が月1回程度に留まってしまうことがある。間隔が空くことで、支援の継続性や変化への対応が遅れる場合がある。	臨機応変に訪問スケジュールを変更できるように、支援員を増員する。	訪問後の報告を保護者にも迅速に行い、園での頑張りや家庭での療育や関わり方に反映できるよう、連絡帳やICTツールを活用した丁寧な情報共有を行う。
2	事務負担と移動時間の増大 訪問時間以上に移動や報告書作成に時間を要し、直接支援に充てる時間の確保が業務的な課題となっている。	訪問先をエリアごとにグルーピングし、同日に近隣の園を連続して訪問できるようスケジュールを管理する。移動のロスを最小限に抑える。	訪問しなくても回る仕組みを作る 特定の子だけに向けた支援ではなく、クラス全体が過ごしやすくなる環境設定(視覚的なスケジュール、場所の構造化など)を提案する。
3			